

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2374900237
法人名	有限会社 福祉館
事業所名	グループホーム ゆりかご
訪問調査日	平成20年11月20日
評価確定日	平成20年12月21日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2374900237		
法人名	有限会社 福祉館		
事業所名	グループホーム ゆりかご		
所在地	日進市北新町南鷺514番地1 (電話) 0561-75-0200		

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月21日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人,	常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800 円	その他の経費(月額)	29,170 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	263 円	昼食	299 円
	夕食	404 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		1,071 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名	
要介護1	5名	要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	5名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	81.1 歳	最低	64 歳	最高	90 歳
協力医療機関名	日進おりど病院・川島病院・田中歯科					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅地と農村の混在する緑豊かな地域にあり、学生寮を改造した建物である。廊下、共用部分は広く開放的になっている。居室の間口は広く、車いすでの入室が容易に行なえる。居室にはのれんが掛けてあり、窓からは四季折々の草花を見ることができ、落ち着いた雰囲気になっている。学習療法を取り入れ、資格を持つ職員により、計算、音読などに取り組んでいる。この取り組みは認知症の進行を遅らせる効果や、職員にとっては資格取得などモチベーションの向上につながっている。運営推進会議に地域の方の参加があり、近所の方が雑談しにホームを訪問したり、地域の行事とホームの行事の日程を合わせた合同で夏祭りを行なうなど地域の交流は図られている。家族も積極的に家族会を開き意見交換を行なっている。職員同士も研修や話し合いの機会が多く、良好な関係である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、理念の内容に地域との関わりについての取り組みが追加された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価について、職員が積極的に取り組めるよう管理者は、環境づくりに努めた。分からないところは説明し、職員同士相談しながら記入した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーは、家族代表、地域代表、市職員、東部地域包括支援センター職員、ホーム職員となっている。メンバーが緊張しないよう最初はお茶会から始めた。現在は家族会の代表の呼びかけにより、2カ月に1回開催されている。会議ではホームから議題をたて説明している。また、メンバーから意見を出してもらい活発に討議している。会議を通じてサービスの質の向上に向け取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に「お気付き箱」を設置しているが、家族は来訪時に直接、管理者や職員に話をしていく。また、「ゆりかご通信」に家族の返信欄があり、利用してもらっている。家族からの意見が寄せられた時は、家族会や運営推進会議で報告し、対処している。また、苦情相談機関としてホームの担当者以外にも日進市役所長寿支援課、国民保険団体連合会の連絡先も重要事項説明書に明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の方がホームへ気軽に立ち寄ってくれたり、畑で採れた野菜などを頂いたりしている。地域の行事である花見や夏祭りなどに一緒に参加したり、弘法大師の日には接待の手伝いをするなど、地域との交流が図られている。また、ホームで行なっている美容室を利用している近所の方もいる。子ども達にお年寄りのことを知って欲しいという願いもあり、「子ども110番」を申請し、地域に啓発していきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	理念は「人としての尊厳を大切にしながら、地域の中で生活 すること」とし、管理者、職員とで話し合いつくれた。 ホームは小さな家族、地域は大きな家族との思いがあり、昔 ながらの風習を大切に、地域の中で心穏やかに安心して生 活したいと考えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されており、職員には入社時に理念やホー ムの姿勢について説明している。また、ミーティングや申し 送りなどで理念を振り返り、入居者が地域の中で普通の生活 ができるよう、自分らしく、健やかに過ごしてもらえよう 支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	近所の方がホームへ気軽に立ち寄ってくれたり、畑で採れた 野菜などを頂いたりしている。地域の行事に日程を合わせ、 家族会主催で夏祭りに一緒に参加した。弘法大師の日には接 待の手伝いをするなど、地域との交流が図られている。ま た、ホームで行なっている美容室を利用している近所の方も いる。子ども達にお年寄りのことを知ってほしいという願い から子ども達のふれあいの場として地域の関わりを考えてい る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	評価について、職員が積極的に取り組めるよう管理者は、環 境づくりに努めた。分からないところは説明し、職員同士相 談しながら記入した。前回の改善点については、理念の内容 に地域との関わりについての取り組みが追加された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、家族代表、地域代表、市職員、東部地域包括支援センター職員、ホーム職員となっている。メンバーが緊張しないよう最初はお茶会から始めた。現在は家族会の代表の呼びかけにより、2カ月に1回開催されている。会議ではホームから議題をたて説明している。また、メンバーから意見を出してもらい活発に討議している。会議を通じてサービスの質の向上に向け取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の長寿支援課の担当者と面談を行い、相談や情報交換を行っている。介護事業者として気軽に相談にのってもらっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「ゆりかご通信」を発行している。担当者が手紙を書き、入居者の様子や状況を家族に伝えている。行事の写真は家族の訪問時に手渡している。2カ月に1回、家族主催の家族会があり、積極的に意見交換が行なわれている。誕生会やイベントの報告、参加の案内もされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「お気付き箱」を設置しているが、家族は来訪時に直接、管理者や職員に話をしている。また、「ゆりかご通信」に家族の返信欄があり、利用してもらっている。家族からの意見が寄せられた時は、家族会や運営推進会議で報告し、対処している。また、苦情相談機関としてホームの担当者以外にも日進市役所長寿支援課、国民保険団体連合会の連絡先も重要事項説明書に明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の介護の基本となる理念のもと、職員は安心して勤務できる体制を整えている。職員はユニットごとに固定されている。新しい職員はホーム独自の資料により、理念やホームの姿勢について指導を受けている。また、1カ月はベテラン職員と組んで入居者となじみの関係ができるよう配慮している。休憩時間、休憩室の確保がされ、職員のストレス軽減の取り組みがされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が学習療法士1級資格を取得しており、学習療法を取り入れ、介護の一環として取り組んでいる。毎週木曜日には、職員が議題をあげ勉強会を行なっている。外部研修については、パート職員も含め、交代で業務として参加し、報告書を提出している。職員の学習意欲は高く、自主的に資格取得の勉強もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会に入会しており、勉強会や意見交換会に管理者だけではなく、職員も参加している。協議会主催の備蓄品の試食会にも参加した。管理者は今後、他のグループホームとの交流活動に取り組んでいきたいと考えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は特に行っていないが、入居前に職員が自宅に面接に行き、本人の家での生活や、どのような介護サービスを経験しているかなどを聞き生活歴の把握に努めている。また、入居前にホーム内を見学してもらい、雰囲気にも馴染み不安なく入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者より家事や食べ物のことを教えてもらったり、掃除や食器洗い、洗濯物の片付けなどを一緒に行なっている。散歩の時などは花の名前や育て方なども教えてもらい、入居者から昔の話を聞いて一緒に涙ぐむこともある。また、入居者から労いの言葉をかけてもらうこともある。入居者と職員の距離は近く家族として接し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人ができること、したいことを日々の会話や行動の中で汲み取るようにしているが、困難な場合は顔の表情を見て把握している。職員は入居者の言うことに対して「NO」という否定の言葉はつかわず、まず本人の思いを受けとめ、実現できる方法を考え、本人に違和感を感じさせないように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の暮らしの課題とケアのあり方について、日々の生活の中での気づきや変化を申し送りノート、ケア記録にて職員間で共有している。本人、家族の要望についても関わりや面会時の話しの中から、医療面は看護師や協力医の意見を参考に支援できるよう介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは毎月行っている。また、見直しの期間に関わらず変化があった場合は記録を全職員が共有し、緊急性が必要と判断されれば家族へ電話をして話し合うこともある。センター方式を使用して一人ひとりの情報、状態を細かく把握している。本人のこれまでの暮らしを理解したうえで、現在の暮らしを把握し、のぞむ暮らしへの実現に向け、入居者本位の介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームと家族が協力しながら、本人と家族の生活を継続できるように支援している。家族の状況により馴染みの美容院、医療機関、買い物、ドライブなどの支援をしている。ホームで行なっている美容室を地域住民が利用することもある。個別に学習療法を取り入れたり日常生活動作の機能や健康チェックの支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に安心できる受診の支援をしている。ホームの協力医による訪問診療が週に1回ある。健康管理や相談ごとにおいて丁寧なアドバイスが受けられる。毎日の体調管理はホームの看護師と共に行っている。急を要すると判断された場合には電話相談も可能であり24時間対応で適切な医療の支援体制を持っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や必要に応じて重度化や終末期の希望を聞き取ったり、ホームで『できること・できないこと』を話し合っている。ホームの役割と本人や家族の望みに大きな差異が生じないように、協力医や希望する医療機関との連携を密にとりながらチーム全員で方針を共有している。家族の不安や心配も受け入れ、冷静な判断ができるよう繰り返し話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の入り口には大きなのれんがプライベート空間を確保している。誇りやプライバシーを損ねないように、声かけに配慮し、状況（食事、おやつの前など）や本人の様子を見てトイレ誘導をしている。また、できる限り同姓介助を基本に支援している。職員は状況に応じて記録を書く場所を選び、人の目に触れないよう配慮している。また、個人情報の記録物に関しては持ち出し禁止となっており全職員が周知している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者には、担当職員が決まっており個別のレクリエーションを行なっている。屋内だけではなく、喫茶店や買い物などの外出も生活の一環として個別に支援している。できるだけ家族の方にもホームへ訪問してもらえよう協力をお願いしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びから調理、盛り付け、配膳、下膳、片付けと一連の流れの中で、安全や衛生面に配慮しながら入居者に行なってもらっている。近所の方から頂いた畑の作物がさまざまな料理になり、味や食材の形の変化を入居者は楽しみにしている。毎日の食事やおやつ作りの時に漂う香りに入居者はとても敏感であり食べる意欲を引き出している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室、脱衣室にそれぞれエアコンが設置され温度調節をしている。広い浴室には1人用と2~3人用の湯舟があり、ゆったりと入浴ができる。週に3回入浴日があり柚子、菖蒲、入浴剤などで楽しんでいる。気の合う入居者同士や同姓介助で支援している。入浴時間や回数の希望は特になく、状況により声かけのタイミングを一人ひとりに合わせて無理のないよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	安全に過ごせる配慮をしながら主体的に参加できる雰囲気づくりをしている。生活歴を活かせる洗濯物たたみ、食器拭き、配膳、下膳、掃除などと経験豊富な話ができる支援である。希望者は学習療法に取り組んでおり、食事をするのと同じように生活の一部であり、日課として管理者は捉えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や希望に添ってホーム周辺の散歩に出かけたり、買い物にコンビニやスーパーへ出かける個別支援をしている。担当者による個別レクリエーションもあり、出かけられない日にも変化や外気に触れる機会を提供している。ホームとしての行事計画の中に花見や紅葉狩り等のドライブが盛り込まれている。これからは年間を通してバランスのとれた行事計画を考えていく予定である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は二重の引き戸になっており、日中は鍵をかけておらず出入り可能である。職員は入居者の動きを見落とさないよう目配りをしている。居間の大きなガラス張りの中からも外からも見えるオープンで外の往来を楽しめる環境にある。玄関横に事務所があり玄関の様子が見える構造になっており、一人で外に出かける入居者の行動を抑制しないよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練は消防署の協力を得て実施している。その他に自主訓練で避難経路の確認や設備会社の点検を行っており、地域の方の参加もある。家族会との連携で防災について、防災頭巾の準備をお願いしている。缶詰、水の用意はあり、その他については今後家族会と相談する予定である。また、近隣との連携を強くして協力体制を構築したいと考えている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は1日1,500kcal未満、水分は1,200mlを目安にしている。一人ひとりの摂取状況に配慮した形態や量を提供している。献立は入居者と話し合いながら旬の野菜やきのこ類を取り入れた食べやすいものになっているが、時には珍しい料理が出ることもあり、入居者は楽しみにしている。“食べる楽しみ”に力を入れており、管理者とホーム長が腕をふるっている。栄養士から定期的に栄養バランスのアドバイスを受けて参考にしている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入り口には外出時や生活の写真正が額に入れて飾ってある。窓からは季節が感じられる畑の野菜や草花が一望できる。居間の大きな吐き出し窓にはレースのカーテンで日差しを柔らかく取り込める工夫があった。所々にソファやベンチを設置して、思い思いに過ごせる空間を提供している。淡水と海水の水槽で熱帯魚を飼育しており、落ち着いた環境で過ごす工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはテレビや使い慣れたタンス、机などが各々持ち込まれており、動物や危険なもの以外は持込が可能である。居室の鍵をかけることも可能であり寛いで過ごすことができる。居室に日常の様子が分かるケア日誌を置いて、家族などの面会時にゆっくりと日々の様子の話をしながら過ごせる工夫をしている。</p>		

■は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。